

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 19年4月－輸出の低迷、 貿易赤字(季節調整値)が継続

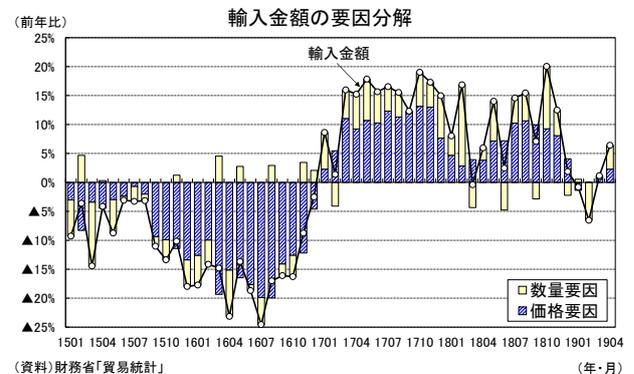
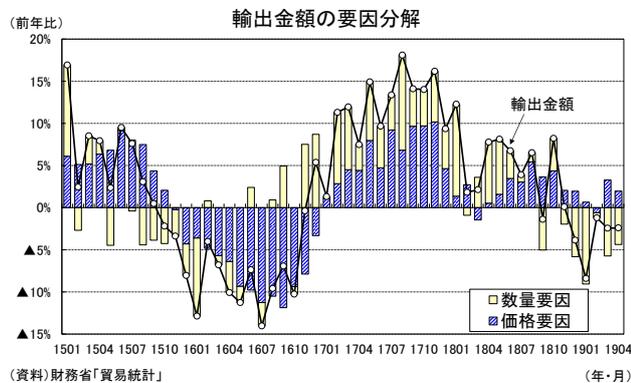
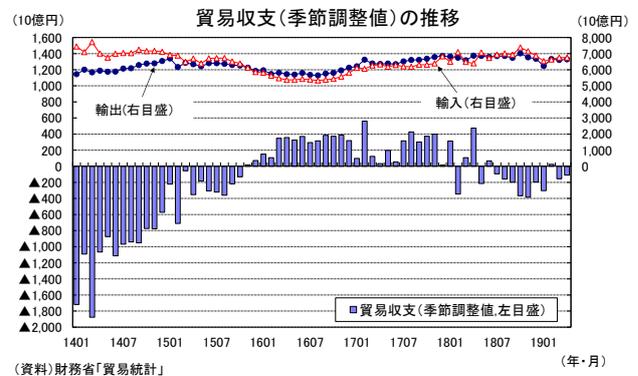
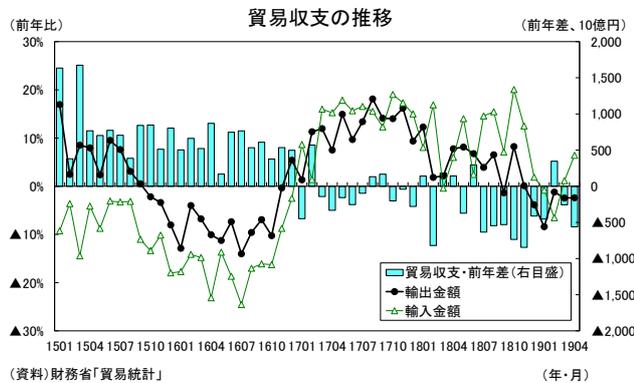
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の減少が続く

財務省が5月22日に公表した貿易統計によると、19年4月の貿易収支は604億円と3ヵ月連続の黒字となったが、事前の市場予想（QUICK集計：2,219億円、当社予想は2,764億円）を下回る結果となった。輸出が前年比▲2.4%（3月：同▲2.4%）と5ヵ月連続で減少する一方、輸入が前年比6.4%（3月：同1.2%）と前月から伸びを高めたため、貿易収支は前年に比べ▲5,606億円の悪化となった。

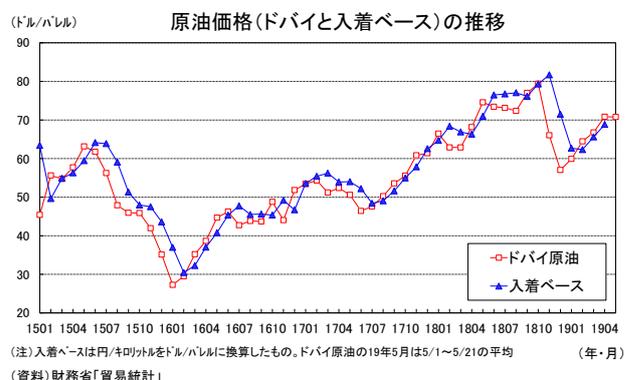
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲4.3%（3月：同▲5.6%）、輸出価格が前年比2.0%（3月：同3.4%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比4.1%（3月：同0.4%）、輸入価格が前年比▲2.2%（3月：同0.7%）であった。



季節調整値の貿易収支は▲1,109億円と2ヵ月連続の赤字となったが、3月の▲1,543億円から赤

字幅が縮小した。輸出が前月比0.6%の増加となる一方、輸入が前月比▲0.1%の減少となったことが貿易赤字の縮小につながった。貿易収支（季節調整値）は中華圏の春節の影響で黒字になった2月を除けば、18年7月から赤字が続いている。

4月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=68.8ドル（当研究所による試算値）となり、3月の65.6ドルから上昇した。原油価格（ドバイ）は4月以降70ドル程度で推移しているため、通関ベースの原油価格は5月には70ドル前半まで上昇することが見込まれる。輸出の低迷が続く中で、原油高で輸入金額が膨らむことから、貿易収支（季節調整値）は赤字が継続する可能性が高い。



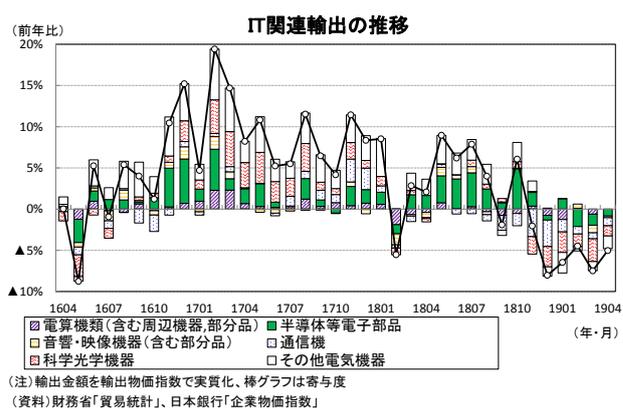
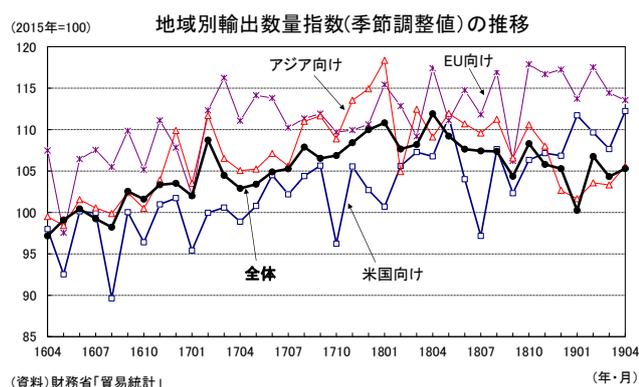
2. 輸出は10連休前の駆け込みで押し上げられている可能性も

19年4月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比5.1%（3月：同0.3%）、EU向けが前年比▲3.0%（3月：同4.8%）、アジア向けが前年比▲3.5%（3月：同▲8.0%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比4.3%（3月：同▲1.8%）、EU向けが前月比▲0.8%（3月：同▲2.6%）、アジア向けが前月比2.2%（3月：同▲0.2%）、全体では前月比0.9%（3月：同▲2.3%）となった。

米国向けは好調を維持し、急低下が続いていたアジア向けが持ち直し、全体でも前月比でプラスとなったが、3月までの落ち込みを考えれば戻りは小さい。輸出減少の主因となっているIT関連の落ち込みにも歯止めがかかっていない。

また、4月の輸出は10連休を控えた前倒しによって押し上げられている可能性もある。輸出が下げ止まりつつあると判断するのは早計だ。5月は駆け込みの反動で輸出が大きく落ち込む恐れもあるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。